

小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてのパブリックコメントについて

番号	事業名等	意見内容	町の考え方
1	総論について	4つの基本目標に取り組んできたが、これまでの取り組みの検証の反省点、改善点の具体的事例及び町民と行政の協働の具体的事例を求める。	<p>町ではこれまでに人口減少対策としてすこやか出産妊産婦支援事業、子どもの遊び場などの整備、町内工業団地への企業誘致、若者定住の促進として「小野町交流・定住支援館」の整備などに取り組んできました。</p> <p>計画の検証の中で出された課題として育児中の経済的支援、育児サービスの充実、出産後の就業環境の整備、積極的な企業情報の発信などによる就業機会の創出などについて改善が必要であるという意見をいただきました。これらの課題に対しては令和4年度から供用が開始される認定こども園による育児環境の整備・充実、企業との連携などによる就業環境・就業機会の整備などを図っていきます。</p> <p>また、令和元年度から開始した住民ワークショップにおいて意識の把握を行い、各業界の有識者や住民代表により構成されている小野町地域創生総合戦略推進会議において計画の検証を毎年実施するなど、町民と行政が一体となってまちづくりに取り組んでいきます。</p>

小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてのパブリックコメントについて

基本目標1 結婚・出産・子育て・教育に楽しみやうれしさを実感できるまちづくり

番号	事業名等	意見内容	町の考え方
1	結婚支援事業について	伝統的な見合・仲人の再活用を行っては。	結婚支援事業については、結婚世話やき人についての年齢層を広げ若年層等の募集など新たな人選を図り研修会等の開催により広域的に活動できる結婚世話やき人の養成を行います。また近隣市町村及び民間団体などとの連携により広域的な事業を展開します。伝統的な手法の活用なども検討しつつ、若者の交流の場の創出を推進します。
2	医療体制の充実	夜間・休日診療の充実、診療科目の増だけでなく医師確保や今後の課題についても記載しては。	医師については福島県内全体で医師不足の状態にあり、町でも福島県立医科大学に対し働きかけを行っていますが、確保には至っていません。しかしながら医師不足解消は喫緊の課題であり、今後も継続して医師の確保にとりくんでいきます。あわせて受診者の動向や地域のニーズに合った診療体制整備の支援を行います。

小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてのパブリックコメントについて

基本目標2 活気にあふれ賑わいを実感できるしごとづくり

番号	事業名等	意見内容	町の考え方
1	はじめに（小野町の強みや課題）について	転出する人は20、30代が多いとあるが、その年代の仕事づくりの具体策と対応策は。	住民アンケートにおいて転出理由として一番多く挙げられたものは進学・就職によるものでした。その一方で、企業からは人手不足の声が挙がっています。また、就労者、雇用者の双方から企業情報の提供、求人の仲介などを求める声も多くあるため、町では町内の既存企業の情報発信を行い、就労のマッチング支援を行っていきます。くわえて、当町の強みである、近隣の経済圏へのアクセスの良さを踏まえ、一般的な通勤圏内の町内外の企業情報の発信等を検討していきます。
2	活力ある商店街支援事業について	具体策として共同店舗などを検討できないか。	共同店舗の新設には大きな投資が伴うため、将来を見据えた運営のあり方や店舗の構成、地域の市場調査など様々な面での調整が必要となります。活力ある商店街をつくるため、どのような施策が有効であるのか事業所の皆さんの意見を尊重しながら積極的な取組みを支援していきます。
3	魅力ある農業への変革について	新規就農者・新規農業参入等の具体策とメニューを記載しては。	新規就農者・新規農業参入者向けの具体策については準備しておりますが、計画書全体のバランスを考慮しながら記載の程度を検討していきます。
4	数値目標について	個人住民税が84千円→88千円とあるが目標が低いのでは。年間収入96千円程度の増加を目指してはどうか。	数値目標については個人住民税（町民税分）の平均値から算出したものです。目標値として低いのではないかと、というご意見について、また指標としての示し方について再度見直しを図ります。

小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてのパブリックコメントについて

基本目標3 新しいひとの流れづくり

番号	事業名等	意見内容	町の考え方
1	町内公共施設の有効活用と各種大会等の誘致事業について	誘致したい大会等を明示してはどうか。	<p>町内公共施設の利活用推進にあたっては、より多くの方々にご利用いただけるよう、あえて大会等を指定せずに門戸を広げたいと考えております。</p> <p>運動公園の利活用については、土曜日・日曜日等の休日は利用が多い状態にあります。平日の利用は少ない状況にあります。このため、町のウェブサイトや広報紙等を通じて、平日の利活用推進を図って参りたいと思います。</p> <p>また、公式試合等の場合には、会場となることに必要な条件等もありますので、今後どのような大会をどの様に誘致できるのか、利用者みなさんのご意見も聞いて情報収集を図ってまいります。</p>
2	地域おこし協力隊推進事業について	目標が令和6年度に10人とあるが、小野町が望む事業を明示し、全面的に任せられる人材募集をしてはどうか。	<p>地域おこし協力隊については、町が必要とする業種をお示しして応募を募っているところです。協力隊になりたい方に全面的にお任せをするというご意見については、隊員のアイデアを活かして活動することで任期が満了した後の活動にもつながりやすいというメリットがある一方、着任したものの何をしたらいいのかかわからない、という状況に陥りやすいデメリットもあるため、それらを考慮しながらこういった人材を募集することが地域おこしにつながるのか検討していきます。</p>

3	小野町にゆかりのある方との連携事業について	<p>具体策を提案できる仕組みはあるか。</p>	<p>小野町にゆかりのある方について、直接足を運べなくても、何か貢献したいと考えてもらえることは、間接的にまちづくりに参加していただく観点から考えてもたいへん有意義なことです。</p> <p>小野町で実施する取り組みについては積極的に周知を行うことで関心を持ってもらい、ふるさと納税制度などを活用して支援いただければと考えます。</p>
4	小野インターチェンジ周辺開発事業について	<p>町の今までのやり方と併せて外部人材・各企業等との共創・協働事業化を目指しては。</p>	<p>小野インターチェンジ周辺開発事業についてはこれまでも様々な分野の方で構成される検討委員会の中で協議を重ねているところで、ご意見にもあるように、町だけではなく外部の人材、各企業等と連携しながら小野町にとって必要な事業について検討していきます。</p>

小野町まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてのパブリックコメントについて

基本目標4 未来に向かって安全で安心して生活できるまちづくり

番号	事業名等	意見内容	町の考え方
1	小さな拠点づくり事業について	地域づくり応援事業を実施しており、30万円助成、3件までとなっているが、事業件数を多くするためと町の自主財源確保のためにもクラウドファンディングを町が導入し活用すべきでは。	町では地域の活性化や課題解決等を目指す町民の自主的な地域づくり活動を支援するため事業に対し上限30万円を助成する地域づくり応援事業を実施しています。クラウドファンディングの活用については自主財源の確保だけでなく、町外の方が町の取り組みに関心を持ち、町の応援者になってもらえるなどの利点もあるため、町の実情と照らし合わせながら検討していきます。
2	ごみ減量化の推進事業について	ごみ処理も含めて町単独事業化を研究すべきでは。	町単独でごみ処理を行うことは町民負担の大幅な増加が見込まれることから、町民負担を軽減し効率的なごみ処理が可能となる近隣自治体である田村市との共同処理を進めたいと考えております。
3	幅広い連携によるまちづくり	田村広域だけでなく広域連携(郡山市だけでなく)を目指すため、どんな事業が有効・有望なのか早急に研究すべきでは。	広域的な連携については、現在も必要な事業については他市町村と連携を図りながら取り組んでいるところですが、今後も町にとって有効な事業等については検討しながら取り組んでいきます。